

地域で人気の  
お店をめざして

「カフェ プティバ」は、手ごろな  
価格で美味しい料理が味わえる  
と地域の皆様にご好評をいただき、  
現在も1日40人以上のお客  
様にご来店いただいております。  
おすすめは、シェフが本場モ  
ロッコで教わったという特製「タ  
ジン鍋」(600円)。「鮭のムニエ  
ル南フランス風」「ロコモコラン  
チ」といった日替わりメニュー(サ  
ラダ・飲み物付500円)、ケー  
キセット(350円)も人気で  
す。職業指導員でシェフの坂口さ  
んは、有名ホテルで長年腕を振  
るったベテランで和・洋・  
中、幅広い料理に精通。バ  
リエーション豊かなメニ  
ーを提供しています。ほ  
ぼ毎日いらっしゃるお客様  
もいて、事業所スタッフ、メン  
バーの励みになっています。  
お客様とメンバーの何  
気ないコミュニケーションに  
支えられるプティバをど  
うぞこれからも温かく見  
守ってください。(カフェ営  
業時間 10時~16時)



## ■プティバ 札幌市清田区平岡3条1丁目2-5 TEL011-887-5111 <http://www.petitpascafe.jp>



メンバーの手作り作品や近隣の作業所の作品を店内で販売しています。

### 学術研修レポート11

## 「薬物依存総論と覚醒剤精神病」

北海道大学大学院 医学研究科助教 伊藤侯輝 先生

10月の学術研修会では、北海道大学大学院医学研究科の伊藤侯輝先生をお招きし「薬物依存総論と覚醒剤精神病」というテーマでご講演いただきました。薬物依存の基礎的な知識と覚醒剤精神病の症例について、先生のご研究内容も交えて、わかりやすく興味深いお話をうかがうことができました。

覚醒剤精神病の症例では、覚醒剤乱用の長期化により、症状が重症化し、それに伴い生活が破綻していく様子が具体的に示され、改めて薬物依存の恐ろしさと治療の困難さについて考えることができました。薬物を繰り返し使用することにより、精神依存や身体依存が増大し、やめたくてもやめられない状態となってしまいます。本人のみならず、家族など周囲の大切な人も巻き込み、社会生活や家庭生活の問題が大きくなってしまうという、辛く苦しい事態が生じてしまう可能性が高いのです。

薬物の問題は、芸能人の逮捕や若年層への拡大など、社会的にも関心が高く、よく報道されている問題であります。しかし、薬物に手を出さないためにも正しい知識の普及が大切であると思いました。

今回の講演は我々医療従事者として、薬物依存の機序を理解し、その治療や対応について考える機会となりました。そして、これらを今後の患者様への支援につなげていきたいと感じました。

(臨床心理士 神山 恵子)



地域での  
自立生活を支援

「カフェ プティバ」は、フランス語の「小さな一步」から名付けられました。



接客を通して地域の皆様に接する

「プティバ」では、統合失調症やうつ病などの精神障害、知的・身体障害などを抱える、10代から50代のメンバー15名が登録しています(平成22年11月現在)。メンバーは、通院先や相談支援事業所等から紹介を受け、「ゆくゆくは就職して自立したい」「生活のリズムを整えたいい」「やりがいのあることをしたい」「仕事を通して社会と関わ

りたい」などの意欲を持つて通っています。方々に就労の場を提供し、必要な知識や能力向上のための指導を行います。また、地域での自立生活を支援する事業所です。「プティバ」は、フランス語の「小さな一步」から名付けられました。



封筒の袋詰め作業

りたい」などの意欲を持つて通っています。

バーが多いので、仕事は個人の希望やベースに合わせて徐々に内容を充実させていきます。接客では、まず、水を運ぶことから始め、オーダー受け、慣れてくると、調理の補助や盛り付けなど作業範囲を広げていきます。

混雑時など、混乱しそうな場合は、スタッフがそばに付いて声掛けます。厨房で仕込みの手伝いをしていたメンバーは毎日来て、生活のリズムがついてきた。

感や満足感を味わいながら、徐々に能力を向上させていくつもあればたら」と話しています。それでも、スタッフがそばに付いて声掛けます。厨房で仕込みの手伝いをしていたメンバーは毎日来て、生活のリズムがついてきた。シエラから料理を教わるのも楽しく」と笑顔で語っていました。個々のメンバーによって通う頻度はさまざまで、平管理者は「継続することが難しい方も多いが、少しずつ達成

メンバーは厨房で料理や片付けを補助  
※予約制でお弁当もお作ります。

プティバ名物の「タジン鍋」

# ちいさな一步を踏み出そう 就労継続支援B型事業所

petit pas  
プティバ

陽光に満ちた明るい店内に響く「いらっしゃいませ」の声。注文を取る店員さんは、どことなく緊張した面持ち。でも、その仕草から一生懸命さが伝わってきます。温かい雰囲気と美味しい料理で、ゆったりとくつろげる喫茶店「カフェ プティバ」。ここでは、病気や障害を抱えるメンバーが自立への一歩を踏み出そうと働いています。